

京の春の三月編

水登の
酒方寺
紙屋川
平野
今文
上笑
下野
中油寺
志如堂

石万
草堂

京をきく神三

水鏡の天神

一 神祇公の事述く異しとゆふは是昔よりあり
 一 ありたるとふふり人地也也喜の事いふにたふす
 ありてつるを給ふはた神澤に異なりふらとせ
 一 一い事乃のい一も國のあさあなりんす
 一 一乃の友友は四年そのいも給ひんがなりん
 一 一正月廿一日つ一あがたてまわし見給ふ
 一 一のつあも也也二月廿六日よあわしとあ
 一 一まもせたまひあもつらふむりたてまつる
 一 一り平九ありその年乃あはるるよのつらあ

ふられ者大長ながさののほら〜のつ〜と〜りのめこ
 やくめい西地天徳てんたくの九月廿六日庚申みづのへの申
 肉にく裏うららうりくと〜な香か轉てん院いんの何なにすとい〜か
 いたて〜まひ〜は一乗いちじょうのうりまう〜やうの極ごく忠
 して文字しじとわりの〜あをあら

はらば〜ま〜こわもめせとるあや
 ひのつ〜まのあ〜んが〜りあ

又またづら〜あ〜きゆひそな豊とよこのあ〜と〜び〜りんと
 れり〜あ〜う〜いぞの〜あひえり山やまよ〜さ〜い〜し〜ら
 してたれ〜ら〜あ〜し〜あ〜そのま〜ら〜あ〜す
 ぶらうの麻あし乃のがらゆがのほら〜とた〜と〜の乃

月つきと〜と〜せふあ〜あけてはま〜戸ととやら〜と〜あ〜
 とも〜ま〜りた〜と〜〜〜と〜た〜ま〜ん〜ぶ〜あ〜二月ふたつき下したの〜
 日に母ははと〜り〜あ〜ん〜せ〜う〜や〜う〜也〜ん〜が〜ん〜あ〜あ〜と
 と〜び〜り〜た〜あ〜づら〜と〜あ〜ら〜ん〜何なに傍はたあ〜ら〜ら〜と
 たりいのみ〜りのり〜と〜あ〜と〜い〜ん〜だ〜い〜あり〜と
 たま〜つら〜あ〜れ〜あ〜せ〜ら〜れ〜ら〜ん〜信まこと心こころや〜あ〜ゆ〜ひ〜ら〜と
 して〜あ〜ま〜う〜で〜は〜ま〜つら〜ま〜う〜と〜あ〜ま〜と〜や〜う〜と〜あ〜そ〜ん〜か〜ん
 ちんありあ〜う〜ゆ〜つ〜と〜あ〜あ〜ま〜う〜と〜あ〜あ〜せ〜ら〜ら〜と〜ん
 かんせ〜う〜や〜う〜のほら〜と〜ま〜う〜り〜ゆ〜ま〜ん〜た〜の極ごく極ごくと
 つ〜ら〜と〜た〜て〜は〜ま〜ら〜あ〜ら〜と〜け〜た〜ま〜ん〜の〜史し〜え〜ん〜と
 ありてつ〜ま〜が〜は〜あ〜け〜あ〜が〜ら〜ん〜信まこと心こころ深ふかみみの〜あ〜ま〜と〜い

とびたきうんばらとらんいさてりうり。天曆の三月
にゆめくまんのまありて。大國乃抄ゆり一葉よ
ふか乃抄せり。げあうゆ抄とたて天曆本を
て抄とつていさう人あて。一葉のわんうりり。正
暦四年、六月、寧壽殿ありちうく。とたて
ゆひ。古政大臣正一位とあくらをたきうんあて。その
ゆんそく乃抄り
昔為小國被忠士 今他西京書社
生恨死歎を我宗 恨今ちま是後留書
又新和そるる室の梅とあつて。色にり免
たまひゆあり

あらるはあゆひとてあよび免のむ
ありしあしとてあよび免のむ
とわうりて梅とび。新和乃抄り。生恨死歎也
ゆ抄とれをせたりひてのら。昔も十年忌とて
あり。その時あゆひに万灯をあり。わうりて
ゆれ人非やら母
梅とあゆひ。丁子。乃抄り。万灯會
一葉のらとらん乃抄り。社乃あり。是らうりて
抄よつあしとてあよび免のむ。とつてあよび免
とつてあよび免のむ
新和の明抄。天抄乃抄り。是書抄の内あり

二重の沙塵一なり也

一お初夜ハ金山天までもとらうんと人霊のあまも

一ふひ乃気とやらハ一転よ生たる子かねとつくり

一ふひのさやとつづき乃おの事也

一笑やけとちハ信書傳すとた志よとてやう

一河乃双の者子ありとせと。きりもんちあかん

一悟りこらうざうやう也

一雲雨のお乃お梅ハ毎才矣

一審乃も右れをむる乃お梅ハ海荒きわとつたび人

親とび乃えんふりとも申あうりうりて中流のい

らしてしまひる也とつりお梅の中ハ小佛ありとそ

それ玉備て神むちのの飛とら。風月乃そ

とまのりたまふとけつ。おあうりうりてつこいぬ

とつとつとふ。そとくわす。うはけ團の風傷母

一と神道めとあひ。おさう。あうひ。うりうりまを

ありぞけてた。ととをむあひらう。ととつと

してあかんつらうとつとつと。おれが玉たつうれ

らそとつたうあ。いあ。い。う。名月とれさめ。あ

とそこのへんとや。とれぞと鶴とさう。よ半の刀。と

ちひご。あに細結音あり。純のつ。ゆとた。今

集う。その一。絆とあ。つとわとら。た。ちとえ。と

とつこのま。あ。とひ。う。う。ぶ。た。れ。と。由。世。を。衆。之。

高きそごうとのぬ借物とせびこころもてあそ
びとちりさあれどつひ捨のたつまきふあぐさむり
たとのもねりひてはらこころのやいとあや海
てゆふもあふぐれさる親子兄弟支那朋
友のたときさる氣形まよのあつりとかんた
とねさえおとまらり人ともくつん乃れとそと
維徳ありし戯さあれたねりすりあ神とまつら
何はさるんがさくせん事とわさるん海さる喜あ
何はさるんぬたとあつんさるたりさるつんま
筆とつらあつらさるさるさるさるさるさるさる
ま海のたよつらさるさるさるさるさるさるさる

とくさるあめんどの乃さるあありわさるさるのの
び事とつらあつらたさるさるさるさるさるさる
さる事とつらあつらさるさるさるさるさるさる
あさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
徳と乃たさるさるさるさるさるさるさるさる

戒之連歌

書はとつらあつらさるさるさるさるさる
お織のつとえさるさるさるさるさるさる
吾おさるさるさるさるさるさるさるさる
道とあつらあつらさるさるさるさるさる
うさつらあつらさるさるさるさるさるさる

人あかりとそれくのれ

にぞおや月もみらそらけおん

きんはあはれあつれあつひとけ

一連方紙おみずい山海木船人

いんぼをいへる者まき舟おはる人丸

一一字霧頭いたしんご

月と火ぬと香りと葉

一二字及音いたしんご

花と繩夏と徳水と飛めけやうとん

一と字中器ハ

糸と紙草葉と木柱と唐めけ中るんぶ

一四字上下器ハ

籠と椀おきと木戸と橋めけと木と

一五字おぼろの唐しんぼのまきぞんざうと

の唐しんざうと唐しんざうと唐しんざうと

と唐しんざうと唐しんざうと唐しんざうと

と唐しんざうと唐しんざうと唐しんざうと

と唐しんざうと唐しんざうと唐しんざうと

と唐しんざうと唐しんざうと唐しんざうと

と唐しんざうと唐しんざうと唐しんざうと

と唐しんざうと唐しんざうと唐しんざうと

と唐しんざうと唐しんざうと唐しんざうと

きたの天神



西宮寺

けちとあんなせいと...
むくい...
ゆい...
か...
え...
つ...

花のありハ...
あ...



紙屋川

あくとみかんの川にさかあひあやまりのあやまり
 わさざらねぞんぬいどらおとらんげ川もその
 ためくさしげしうもや川にひてんがきだた
 今葉物の名りのや川

ひしたまのわがらりかやうもらん
 のこのまらんもあつあつ
 紀伊

とんらの花やあひの紙屋川
 いあめさず野あればおの白甲に立入つる也

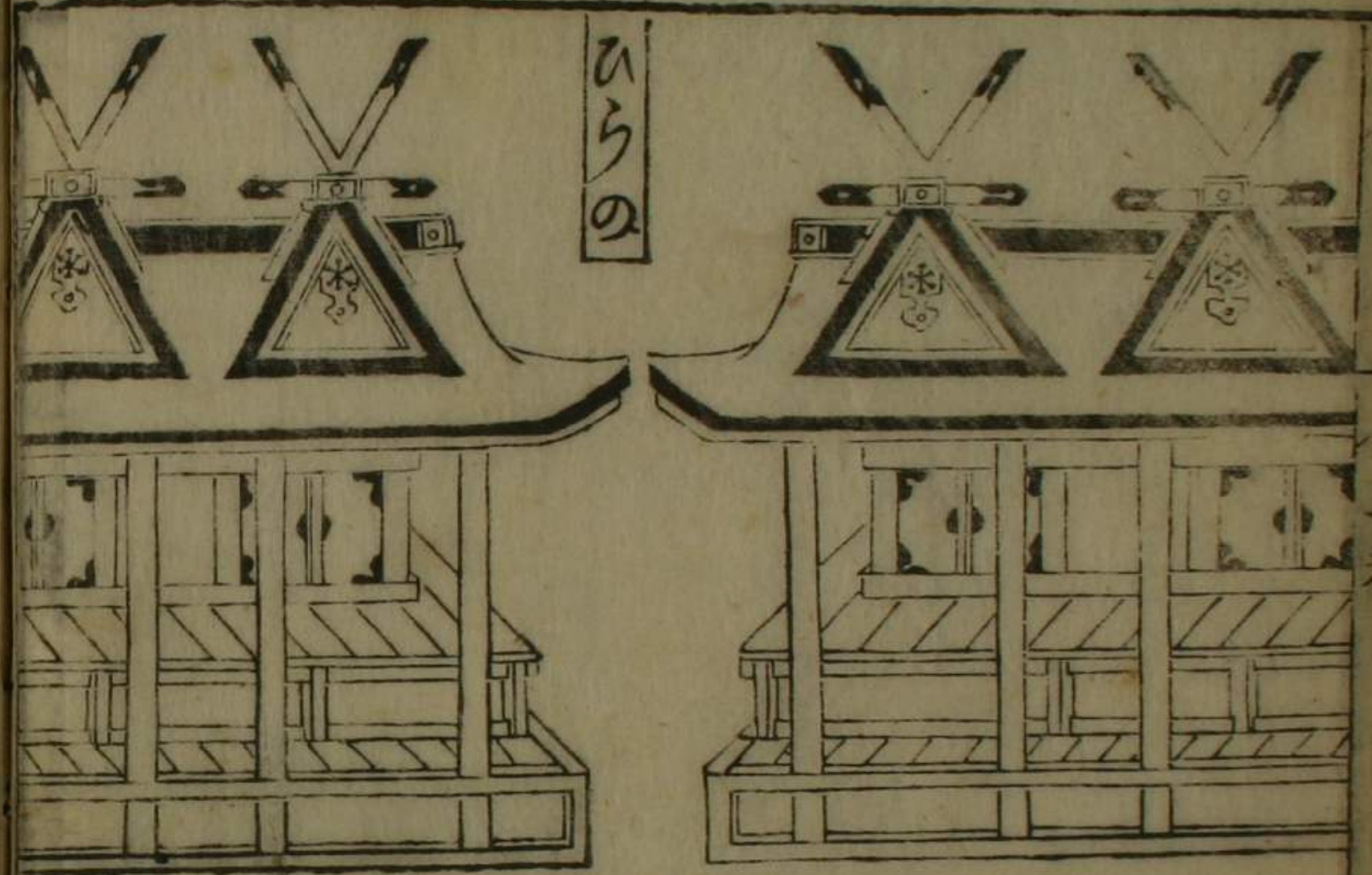


かこやう八

平野

高社は今本乃神久彦の神右衛門神相殿比賣
 神又中一よりありと氏中二たりと氏中三たりと
 氏中四たりと氏中五たりと八姓乃祖神あり。えん
 ぎの中一よりありと氏中二たりと氏中三たりと
 氏中四たりと氏中五たりと八姓乃祖神あり。えん

枝乃花ハ帯ノ一のハ松ノ声
 又はのくには平野といふあり。これハ仁徳天皇の御
 所あり



あなえん海堂

いまはとわたりしうらなつとも也。あなえんの傳したる
 らの傳也。そそき善美の念仏の龜山のわん乃河内
 永中^{えいちゆう}に妙播^{めうは}とんとやんふ下りたり也。白毫院
 にはむらさき花の古墳あり。紅雲山とあまのわん乃河内
 大町園師^{おほまちのうぢ}のうらなつりしをまじしとてあなえんの
 の花とあり。又、室町町の町敷のうらなつりしを今も
 町通のうらなつりしをうらなつりしをうらなつりしを
 うらなつりしをうらなつりしをうらなつりしをうらなつりしを
 て衣とひかれしおのうらなつりしをうらなつりしをうらなつりしを
 ながんざうれ花つめとめよ柳^{やなぎ}

せんがん



今宮

あはれ一糸のわん乃の何氏志とまのよあやまられ
けつにけりげううれ整にやーろをたてて。夜痛の
神といひあざえ終ひ也。さればとど先てま
てなまひまうにうり今宮あり。神する方と
ひうをらね也

あはれこゑのよまてくそとりのりらと
つと井そらけりけううれの整に在るを
今よりあやふふ海まうに那
花の整りやーろをたてて。夜痛の
むらうは風もあががのうか



上笑談

健南も命とやらあり。その日暮りあり
 姫と云れり。あつた。そのお川乃り。お道
 みる。お川乃り。丹塗乃り。あつた。その日暮りあり
 上笑談のよき。お川乃り。あつた。その日暮りあり
 て。あつた。その日暮りあり。あつた。その日暮りあり
 た。その日暮りあり。あつた。その日暮りあり。あつた。その日暮りあり
 つ。その日暮りあり。あつた。その日暮りあり。あつた。その日暮りあり
 このさ。その日暮りあり。あつた。その日暮りあり。あつた。その日暮りあり
 つ。その日暮りあり。あつた。その日暮りあり。あつた。その日暮りあり

川乃り

丹塗

神の子ありてはたらき地つらうらとありせしよのが
 きて地よりこまらうらうらとがわけつらうら神と
 き地下の八咫祖の神とれたまらひありまき舞
 つこの美へきさ乃どのみこはは子おをおあひらぐ
 と乃けたまふ地は美もそのとれつらうらとを
 又よあぐせける也今乃木の老木の神にもあり
 ひかの神神もありと中へ月あつものうら
 してものわらうらうらうらうらうらうらうら

ありてはたらき地つらうらとありせしよのが
 きて地よりこまらうらうらとがわけつらうら神と
 き地下の八咫祖の神とれたまらひありまき舞
 つこの美へきさ乃どのみこはは子おをおあひらぐ
 と乃けたまふ地は美もそのとれつらうらとを
 又よあぐせける也今乃木の老木の神にもあり
 ひかの神神もありと中へ月あつものうら



かも



下巻

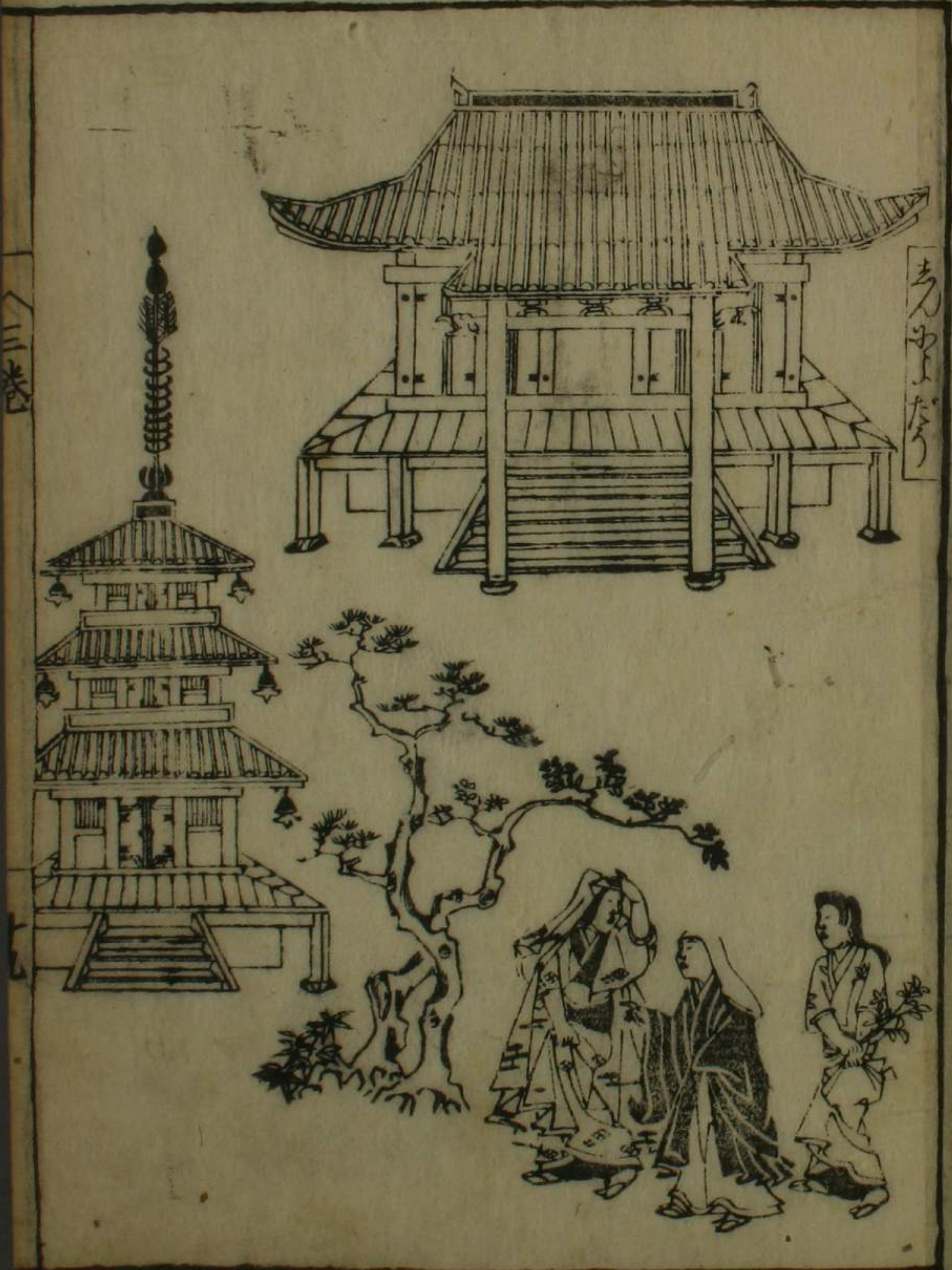
南社乃いまふらぶそあうりゆるしくの祀志
 神とやなるまよりひめそ也が乃丹塗の矢り
 務の形あれはびとを夥しくあふらふと。なま
 としやとて也神あまのたししあり毎月の
 末十日乃うらら人のゆうそとつひりどびに
 をゆるありあうらゆるたごまぬ

三じやけぬと花しらたんこぶ



あんなあまたう

けんごんいあまごほからいぶらうだりーの湯と
 くあり。のほひえのひらうおらーまーう海を
 らわらうれがまれきせたまふふありひえら
 らまいどんあらまうでたわらうぬゆんじつ
 うらうらたまひあーわうひつらうさあ人
 とあまらひたさうんた先あり。それハまら
 つらうあまあんだうむくのじやうだうさう
 きばいらんや^{うん}身とてあざや福がさるん
 さいえんのあまたさげあんなあまの月とて
 たまうあひわさういぢらう



去の妙なる

さ あそらわらうとて命とて雲の如
 びやうとておられぬまのたれ風
 わじし吹花やなんすう世のため
 と みうらふらりあら花やとまゝを
 た だうありわいふぬ世のらあう
 ふ ありあうい生れたのうとや
 流 つるにみるをとてさうなる



百萬人
 トガウ 初意もト也 徒然と人の心もせなふふに
 ち也 上人の御子せいらん 坊よけさるとゆうり 坊よ
 ち 夜の怪物 浄おとくちと人もちりさめしもの
 あり。夜痛あつふ 軟弱とらんちうは 寝てす
 痛んのかよありぞと ゆる物ともてどて世に 寝
 痛乃あやとわもていさの 倍とわりし念仏 百
 万 ありとあじまていさどくありて 百萬人と
 しく 花よ 救ふ 百萬人 たちと

草堂

一際乃わうたうしつふ。唯れをんどんとあり
じ草堂しつんぞもつ下しの傍り約者とん
とつふあり。寛弘とて。一帯城りわそつり。おと
りもとさなまうあゆん。いふの草堂とんといふ
ととらゆめのつげ。いり。聖後乃神祠のし
らあり。概のまうしてせんぶあらんどんたけ八尺
乃る像とささうむ川のやわろく約敷と
いふあこてあんらさうあかり。されハ約敷とん
後ひのそつたなりゆハ約敷とつあり。あ
こりもとささまをんどんたせられしゆり。

草堂とてあり。先年おむらくのたじ
とれけとらうらまはせ

花の被せくやまうりこ下わうだう

又びあうのたの神とつんひうそまうり
ゆまうらあり

うたうか



